

太宰治の山岸外史宛の書簡について

近畿大学日本文化研究所所長 網澤満昭

3

「太宰治 はがき抄」上梓の意義

山内祥史

5

はがき抄

凡 例……………8

書簡番号 1～83……………10

書簡集と書簡体小説の間——太宰治「虚構の春」をテコに——

浅野 洋

177

「東京八景」のなかの山岸外史

佐藤秀明

187

太宰治と山岸外史——書簡に見る文学的格闘——

吉岡真緒

197

太宰治・コミュニケーション・山岸外史

網澤満昭

211

○ 本書は、太宰治の山岸外史宛書簡（すべてはがき、絵はがきを含む）八十三通を写真で掲載し、その文面を活字にして示したものである。また適宜【校異】と【ノート】を施した。なおこの八十三通の書簡は、すべて第十一次『太宰治全集』第十二卷（筑摩書房、一九九九年四月）に収録されている。

○ 文面を活字化するにあたり、明らかな誤記や仮名遣いの誤りも原文どおりとした。ただし、漢字は新漢字に改めた。読点の代わりに一字アキにしたと思われる箇所もあるが、そのアキは設けなかった。句点の代わりにアキは設けた。

○ 発信の年月日は、直筆、消印、文面からの推定によって示し、その根拠を「直筆」「消印」「推定」として記した。直筆と消印とで日にちが異なる場合は、直筆の日を採用し、消印の日も示した。

○ 【校異】では、第十一次『太宰治全集』第十二卷所収の書簡と校合し、その異同を示した。ただし、はがき表面の住所、敬称の異同は省いた。

○ 【ノート】では、適宜解説的な注を施した。その際、右に掲げた第十一次『太宰治全集』のほか以下の文献を参照した。また、山岸徹氏からご教示を得た。

- ・ 第十次『太宰治全集』第十一卷（筑摩書房、一九九一年三月）
- ・ 山岸外史『太宰治おぼえがき』（審美社、一九六三年十月）
- ・ 山岸外史『人間太宰治』（ちくま文庫、一九八九年八月）
- ・ 相馬正一『評伝太宰治』第二部（筑摩書房、一九八三年七月）
- ・ 津島美知子『回想の太宰治』（講談社文庫、一九八三年六月）
- ・ 池内規行『評伝・山岸外史』（万有企画、一九八五年二月）
- ・ 山内祥史『解題』（『太宰治全集』第一卷、筑摩書房、一九八九年六月）
- ・ 山内祥史『年譜・著作年表』（『太宰治全集』別巻、筑摩書房、一九九二年四月）
- ・ 岸陸子『太宰治年譜』（志村有弘・渡部芳紀編『太宰治大事典』勉誠出版、二〇〇五年一月）

（校異、ノート・佐藤秀明）